



# あゆみ

No. 144

平成30年10月15日

編集 発行： 芥山寮・第二芥山寮

天草市本町下河内 680

TEL 0969-22-5339・0969-22-1766

FAX 0969-22-5090



やりました!! ペタンク競技

## 優勝

九月九日に熊本県知的障がい者施設協会主催スポーツ大会が菊池市総合体育館で行われました。芥山寮と第二芥山寮チームからもペタンク競技へ参加してきました。大会前には皆さん一生懸命練習に取り組み、その成果が実り、なんと、第二芥山寮チームが見事優勝することができました。詳細は二Pへ

『下半期が始まりました』

施設長 鮑田 一夫



空の高いところに絹雲が見られ、黄金色の田では刈り取りが進んでいる天草はすっかり秋の風情になり、暑かった夏の跡形はもうどこにもありません。

四月に始まった今年度も折り返し点を過ぎました。そこで、上半期を少し振り返ってみます。始まりと共に芥山寮で二名の職員が退職し、現場は本当にてんてこ舞いでした。また、どちらの施設も平均年齢が約六十歳という高齢の方が多いところに、十代、二十代の方が数名入所され、幅広い年齢層の方々を支援していかねばならないという難しさも加わりました。自閉的傾向の強い方々も増え、個人に即した支援方法がますます必要にもなってきました。幸い少しずつ人材確保もできつつあり、下半期は昨年度と同数もしくはそれ以上の職員が揃いそうに、管理者としては胸をなで下ろしていただきます。新人はこれからOJT、研修等を通して、芥山寮、第二芥山寮の職員として大きく育っていかれると思えます。利用者の皆さんは、嬉しいことに昨年度に比べると入院日数が大きく減少しました。それだけ元気にこの上半期を過ごしていただいたということです。何よ

りの結果です。

ところで、芥山寮では、毎日の歩行の種類(外・距離別に二種類、施設内、外気浴)の記録を利用者一人ずつ記録しています。それを見るとどれくらい歩行をしたかが一目瞭然です。全体の歩行回数に対し何割参加したか、その人のレベルに対しそれでよかったかどうかという量的な判断がすぐにはできません。個別支援計画に歩行を入れていく評価を出すようにしており、主観ではなく客観的に上半期を振り返る一つの材料になっています。そのほかに外出の回数、失禁、発作の回数などデータをとれるものをもって、なるべく客観的に評価をするように工夫しています。その結果から課題を探り出し、下半期の個別支援計画を見直しているはずですが、人が人に向き合う支援という仕事には主観的な判断に負う部分も多く、またそれが必要でもありますが、その中に少しでも客観性を滑り込ませ、より信頼度の高い個別支援計画を作成し、現場での支援にもそれを活かしていきたいと考えています。



# サービスの現場より

## 『第三者評価その後』

副施設長 鮎田逸子



昨年度受審した第三者評価は思っていた以上に辛い評価でした。(結果は県のホームページから閲覧可能です。)七四項目のうち一つについては是正できる一つについては是正し、もう一つについてもハード・ソフト両面から改善を図っています。残りのb評価項目は、昨年度中に各項目で責任者を決め、改善に取り組んでいるところです。b評価を受けたものは文書・書類関係、人材確保・育成などの人事関係、情報の提供の方法等、主に直接支援に関係する部分ではありませんでした。支援現場の項目ではa評価の方が多く、それが一つの救いではありましたが。支援員にとっては、日々自分達が行っている支援が間違っていないか確認することに悩んだと思います。しかし、組織全体をまとめ、理念という一本の柱を中心に統一的に施設を運営するという面ではまだまだでした。九月一杯で各責任者に改善の中間報告(最終報告になったものもあります。)を提出して貰いました。今からそれを一つ一つ検証していく予定です。利用者さんへの支援は日々待ったなしです。暑かったり寒かったり、病気になったり。毎日を過ごしていくことで一杯で五十年経ってしまったと言えれば言い訳になりますが、そう感じる職員も多いと思います。また、第三者評価では評価できない面も支援にはあります。言葉にできない記録に残らない部分です。空気のようなものですが、それが一番大切な支援のエッセンスで、それがなければ支援は空虚なものになってしまいます。そのエッセンスを感じるハートを職員が共有することはとても大切なことだと、私は思っています。しかし、第三者評価で指摘された項目を是正していくことがそのエッセンスを育てる土台になると、指摘事項に対する改善を何度も考えながら気付きました。一人一人違った考えを持つ多くの人間が、一つ屋根の下でせめて仕事に関しては同じ方向を向いていけるように、最後まできちんと改善するつもりです。

## 『施設親善スポーツ大会に参加して』

支援主任 橋口 敬



九月九日に菊池市で開催された、施設親善スポーツ大会ペタングの部に苔山寮、第二苔山寮それぞれ二チームが参加しました。当初、参加利用者の人達や職員も決勝リーグに何とか上がる事を目標とし、前日から菊池宿泊だった為温泉や料理を楽しみにして、さほど緊張感がないまま大会に臨みました。しかし、一ヶ月前から練習に励み自信を付けての大会参加でありました。苔山寮A、Bチームとも余裕で決勝に進む事が出来ましたが、第二苔山寮チームは、普段練習していたコートより床が滑り過ぎ、ボールが思ったようにコントロール出来ずに一試合目から苦戦しました。どうすればボールが的に近づくようになるのかを話し合い、工夫しながら第二戦に挑みました。結果、第二苔山寮チームは二チームとも勝つ事が出来ましたが、前の試合の結果が響き、Bチームのみ決勝に進む事が出来ませんでした。決勝リーグになると勝利欲と緊張感が出てきた為か、あれ程調子のよかった苔山寮の両チームとも調子を崩してしまい、次に進む事が出来ず涙を飲みました。最後に残った第二苔山寮Bチームは、当初の予想を大きく上回りプレッシャーを物ともせず勝ち進み、とうとう優勝してしまいました。この大会十数年参加して初めての事でした。勝ち進む事が出来なかった人達も一緒にあって興奮し、喜んでくれました。施設に戻ると皆が祝福してくれ、優勝したメンバーは鼻高々でした。



## 『秋の展示即売会に向けて』

支援員 若山 慎



十月、十一月にかけてこれからたくさん展示即売会が予定されています。多くの方に苔山寮・第二苔山寮・グループホームを知っていただくチャンスです。我々、地域活動委員会もどういったアピールをしてお客様に足を運んでいただくか、最大の見せ所だと思い、話し合いをして参りました。苔山寮・第二苔山寮利用者の方々が大切に育てた椎茸を加工した乾燥椎茸や、山へ葛を採りに行き皆さんで飾り付けをして作ったクリスマスリース等利用者の方々が作った作品を沢山展示即売する予定です。その他、陶器・ホットコーヒー等準備し皆様のお越しをお待ちしております。広告として都度あゆみ新聞もお配りしております。《展示会予定》

ゆうすい祭 十月二十七日(土)  
 天草市福祉祭り 十月二十八日(日)  
 天草大陶磁器展 十一月一日〜六日  
 本町ふるさと祭り 十一月二三日(金)  
 何名かづつですが、利用者の販売員を同行しています。一緒に作品を販売し、社会経験をしていたらと思えます。御都合が付かれる方は是非会場の方でお待ちしておりますので声を掛けに来て下さい。



「全国グループホーム等研修会 九月三・四日  
四国地区大会」に愛媛に参加して」  
サービス管理責任者 株野 勝



「変化する社会環境、変わらぬ思い」とのテーマにより開催されました。障がい者の地域移行が叫ばれている中、近い将来、全国の入所施設の利用者数をグループホーム(以下GH)の利用者数が上回る事が予測されます。

GHとは、障がいのある方が地域住民との交流が確保される地域の中で、家庭的な雰囲気の下、共同生活を営む住まいの場を指します。夜間における食事や入浴等の介護、相談等の日常生活上の援助が主なサービス内容です。介護が必要な方への対応の違いにより介護サービス包括型と外部サービス利用型がありますが、障がいの重度化、高齢化に対応できる共同生活援助の新たな類型として、「日中サービス支援型共同生活援助」が平成三十年度より創設されました。それに伴い、重度の障がい者や高齢障がい者の方のグループホームでの生活が可能となります。

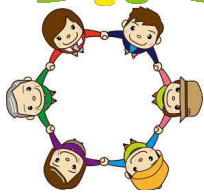
当事業所においては、三つの外部サービス利用型GHに二八名の利用者の方が暮らしておられます。その中の一か所のグループホームの平均年齢は六五歳を超えており、七五歳を超える方も数名おられます。数年前までは出来ていた事が年々難しくなってきましたが、GHでの生活を望まれています。本人の意思を尊重し、高齢利用者の方々にとって安心して自分らしい生活を送る事が可能となるよう、想像力を日々働かせながら業務に邁進したいと思えます。

「自閉症を正しく理解すること」  
「自閉症の支援でもっとも大切なこと」



支援員 小堀田 真子

今回自閉症を正しく理解するについての講演会に参加してきました。自閉症は発達障がいの一つです。はっきりとしたメカニズムは解明されていませんが、育った環境や親のしつけ方等が原因でおこるものではないということが明確に分かっています。症状は、大きく「対人関係の障がい」「言葉とコミュニケーションの障害」「拘りや興味のかたより」の三つに分けられています。特に、集団生活をおくる上で困難を感じる事が多く、場合によっては支援が必要となります。自閉症の方は話しことばによる理解が難しいです。講演会では自閉症の方への支援の仕方(コミュニケーションの取り方)をいくつか話されました。その中でも自閉症の方は視覚が強く、視覚から理解するという話がありました。視覚からと言っても、絵カードや写真、実物等その方にあった伝え方を探さないとはいけません。一つの方法がダメだったからではなく長期間にかけてその人個人にあった伝え方を見つけていく必要があります。私は今回の講演会で、まだまだ自閉症の方を理解出来ないと感じました。



これから利用者の方が毎日楽しく過ごせる様、利用者の方一人一人にあった支援の方法を探していこうと思えました。

「入職して思う事」

支援員 清原 まゆみ



私は、今年の十一月より芥山寮支援員として働かせて頂いております。前職は看護職員として、二十年以上医療機関に勤めていました。医療と福祉施設では、自分が思っていた以上に違いがあり、当初は戸惑うことが多く不安と緊張の毎日でした。利用所の方の障がい特性も様々で、言葉や行動で自分の気持ちや要望を伝える事が難しい方が多く、どうしたら理解でき寄り添った支援ができるのかと考えていました。そんな中、利用者の方にいつも笑顔で挨拶をして下さる方がいました。その方は誰に対しても大きな声で「おはよう」と笑顔で言ってくれます。新人に対してもそうです。今思うと、当初はその方に私自身が元気を貰っていたように思います。一年程経った今、少しずつ仕事にも慣れ利用者の方の特性も知っていく中で思う事は、より良い支援をする為には観察力を養い、自分自身の知識向上の必要があるということです。先日研修会に参加し、コミュニケーション手段も言葉だけではなくジェスチャー、表情、写真や絵を用いる等様々な方法があり、利用者の方の特性を知った上で伝える事が大切だと学びました。利用者の方は、日々体調や情緒面にも変化があります。その方独自の表現方法も様々です。今後は、利用者の方の笑顔が増え、一人ひとりの個性を伸ばせるような支援を目指して行きたいと思えます。



『REIZANカフェへようこそ』

支援員 濱 睦史



月に一度のオープンカフェは、利用者の方がとても楽しみにされている行事の一つです。

多目的ホールには洒落た音楽がながれ、ちよつと手に取りたくなる雑誌を並べ、テーブルにはクロスをあしらひ、そのテーブルへ座ると白と黒の洋服にベレー帽がよく似合う店員の利用者の方が気取らず注文をとりに来るなど、本当のカフェに来ているような雰囲気作りを皆で行っています。九月のメニューは新しい試みで焼きトウモロコシを出させていただきました。炭火でじっくり焼き、栄養士秘伝のたれを何度もぬって、できあがったトウモロコシは大好評で「またトウモロコシお願いね。」と沢山の方が声を掛けて下さいました。また、トウモロコシを食べる際に横からではなく縦から食べようとされている利用者の方もおられ、「この方は、まるまる一本のトウモロコシを食べるのが初めてなんだろうな。」と新しい体験を提供することも出来ました。今後も季節に応じた新メニューを提出出来ればと考えております。



『亀川小学校施設見学及び交流会』

十月十二日(金)

支援員 山口 智史



「福祉施設も地域資源の一つであることを知ってもらおうと共に、小学校児童との交流をすることでお互い協力して活動できる心と姿勢を養う。」を主旨に、もう恒例となっている会で、楽しみにされている行事の一つです。

毎回児童が考えてくる学校の紹介発表や手作りゲームがとても楽しく、利用者の皆さんにも笑顔がこぼれます。そうです、いつも明るい皆さんですが、明らかにいつもと笑顔が違います。たくさんの子童に來寮いただき、キラキラできた楽しい一日となりました。ありがとうございました。

この日のために、小学生の皆さんが様々なゲームや活動を考えてきてくれました。利用者の皆さんも興味津々。生徒さんから、やり方を教わりながら一緒に楽しみました。



『調理実習より』

支援員 吉浦 富枝



毎月一回、GHはばたき厨房、食堂をお借りし、実習を行っています。九月のメニューはミルクゼリーで

粉と砂糖を合わせる作業でしたが、「砂糖を潰しながら混ぜて下さい」の声掛けに泡立て器でグルグル回したり、トントンと叩く動きであったりと、とても真剣な表情で取り組んでいました。試食の際は、「あと少し食べますか」の声掛けに、五人とも器を差し出して、あっという間に食されていました。「また作ろうね」との声も聞かれました。

「シャカ、シャカ」  
しっかり混ぜてくださいよー♪



分量が間違えてないでしょうか？  
ちゃんとみててくださいよー (\*^o^\*)

# 敬老会交流会、長寿のお祝い ～ハーモニカ交流会～

9月14日

「敬老会交流会及び長寿の祝い」

支援副主任 菊地泰博

今年もボランティアの江藤さんをお招きして、九月十四日、両施設合同の敬老会を行いました。両施設共に約半数の方が敬老対象者とあつて、数年前と比べると随分高齢化して参りました。敬老会には、地域の方もお招きして交流を図り、また、ささやかな記念品と江藤さんの心のこもったハーモニカ演奏で楽しいひとときを過ごしました。皆さん、いつまでも元気で過ごされて下さいね。

## 【芥山寮：27名】

伊津野縫子さん(84歳)	長川 清孝さん(83歳)	砥上 武子さん(82歳)
岡部 亮一さん(81歳)	江口 昭美さん(79歳)	稲田キヨ子さん(79歳)
開田キミエさん(79歳)	安谷 紀子さん(79歳)	内野 節子さん(78歳)
西田 廣幸さん(70歳)	轟 敬治さん(68歳)	中村 英子さん(71歳)
新谷八重子さん(70歳)	堤 佳子さん(70歳)	赤星 信一さん(68歳)
小田 義隆さん(68歳)	大塚 治代さん(66歳)	小野寺富枝さん(67歳)
祝原 光則さん(68歳)	福島千恵子さん(67歳)	内古閑元雄さん(66歳)
今井 次男さん(66歳)	島田 盛二さん(66歳)	富丸 忠雄さん(66歳)
松本 隆さん(66歳)	金子 順子さん(66歳)	栗原 節子さん(66歳)

## 【第二芥山寮：13名】

菅原 道正さん(80歳)	柴田 勝則さん(74歳)	山隈 孝也さん(72歳)
井手口秀彦さん(74歳)	濱口 和平さん(73歳)	藤井 良雄さん(70歳)
古川 秋男さん(70歳)	祝原 和則さん(69歳)	大久保實也さん(69歳)
宮崎 敏次さん(68歳)	里 信之さん(65歳)	山口 忠明さん(66歳)
川北アヤ子さん(67歳)		

## 【GHはばたき：4名】

浦本 昭男さん(75歳)	村本 政春さん(71歳)	松本 良勝さん(72歳)
中村 勇さん(65歳)		

## 【GH浜荘：2名】

鬼塚 豊志さん(75歳)	嶽坂 安男さん(75歳)
--------------	--------------



おめでとうございます。

### 【新利用者紹介】



金子 裕子さん

お友達をたくさん作っていただき、一緒に楽しい時間を過ごしていきましょ。

### 【新職員紹介】

利用者の皆さん、職員共々、二人のご活躍を期待しています。一緒に頑張りましょ。

### 今井 多恵さん

十月一日より茶山寮支援員として勤務

### 中村 聡希さん

九月一日より第二茶山寮支援員として勤務

### 【退所利用者】

十月に川北アヤ子さん、柴田真由美さん、山崎史郷さんの三名の方が退所されました。たくさんの思い出をありがとうございます。

### やきものだより

#### 『第十五回天草大陶磁器展』

《日 程》十一月一日（木）～六日（火）（六日間）

《会 場》天草市民センター体育館

《ブースNo.》茶山寮焼き「一〇三」

史上最大の百十四の窯元が大集合し、毎年二万人程の方達が県内外から見に来られます。一年間渾身の作品が焼き上がり展示しています。

#### 『やきもの教室合同展示会』

《日 程》十一月二日～四日（三日間）

《時 間》十時～十六時

《会 場》天草市民センター二階会議室

《合同教室》茶山寮陶芸教室、

教室の方々個性溢れた作品の発表会です。

コーヒーご準備しています。

是非遊びにおいでください。



### 『感謝の気持ちを音にたくして』

支援員 比志島 瞳



九月八日、私達グループホームはばたきミュージックベル演奏チームは地域生活支援センターグリーンさんで行われました「グリーンフェスタ」に、昨年に引き続き出演の依頼を頂き演奏してまいりました。

昨年は音が聴こえづらかったとの声もあり、元々室内演奏の為の楽器であるミュージックベルの音をいかに屋外でもお届け出来るかが今回の課題の一つでしたが、グリーンご担当者さんをはじめスタッフの皆様のご尽力と様々な工夫により、お陰様で施設いっぱいにはベルの音色が響きわたりました。

当日は雨の中での演奏でしたが、客席に職員や知り合いの顔を見つけ、気恥ずかしさの中にも喜びと勇気とパワーをもらい、緊張しつつも気持ち良く演奏する事が出来ました。グリーンさんのご厚意とお客様の応援、そしてメンバーの熱意が掛け合わり、雨さえも楽しい良い思い出となりました。

十月二七日には、サポートセンターゆうすいさんで開催されます「ゆうすい祭」への出演の依頼も頂いております。たくさんの方々のご理解、ご協力のおかげで、本当に有り難く有意義な経験を積む事が出来ています。これからも皆様の支えを糧にミュージックベルの演奏技術のみならず、人間的にも成長していけるよう精進してまいります。

今後とも、応援宜しくお願いします！



### ＜行事予定＞

十月 二十日 長崎一泊旅行

二十七日 ゆうすい祭

二八日 天草市福祉祭り展示

### 十一月

六日 総合防災訓練

十六日 創立記念日交流会

二三日 本町ふるさと祭り

二七日 各種癌検診

### 十二月

二日 コカコーラ交流会

### ＜編集後記＞

先日、夕食を終えテレビを見て寛いでいたところ、少し開けていた窓の隙間から、虫の鳴き声が聞こえてきました。そっと窓を開けてみると沢山の鳴き声が入って来ました。テレビを消し、暫く目を閉じ聞いて見ることにしました。心地良い秋の夜風と虫たちの演奏会。つい、うとうととしてしまいました。日頃、中々見つけることは出来ない虫たちが、夜になると何処からともなく集い、癒やしの時間を与えてくれる。

私たちが、利用者の皆さんの前に何処からともなく集い、そっと寄り添いながら、少しでもホッと穏やかな気持ちになつて頂けるような存在でありたいと、虫たちに教わった時間でありました。



